

大鹿村議会だより

第23号 平成30年4月16日 発行：大鹿村議会 TEL：0265-39-2001

平成30年3月

大鹿村議会3月定例会

平成30年3月大鹿村議会定例会が3月7日から16日までの10日間の会期で開会されました。今定例会に提案された議案等は、付議事件21件、議員発議2件で、すべて原案どおり可決されました。請願・陳情は請願2件で、請願1件は採択、1件は継続審査となりました。

付議事件

議案第1号 議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例等の一部を改正する条例の制定について

▼人事院勧告に基づく手当の改正です。

議案第2号 大鹿村国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

▼国民健康保険の制度改正により運営主体が県になることに伴う文言の変更です。

議案第3号 大鹿村介護保険条例の一部を改正する条例の制定について

▼介護保険料の改正です。

議案第4号 大鹿村介護保険

法に基づく指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に係る基準に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第5号 大鹿村介護保険法に基づく指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に係る基準に関する条例の一部を改正する条例の制定について

▼介護医療院、共生型サービスの創設に伴う改正です。

議案第6号 介護保険法に基づく指定居宅介護支援等の事業の従業者及び運営の基準に

関する条例の制定について

▼指定権限が村に移譲されることに伴う条例制定です。

議案第7号 大鹿村後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例の制定について

▼住所持特例と保険料納期についての改正です。

議案第8号 スクールバス管理条例の一部を改正する条例の制定について

▼保育園児をバスの乗車対象から外す改正です。

議案第9号 平成29年度大鹿村一般会計補正予算(第6号)について

議案第10号 平成29年度大鹿村国民健康保険特別会計補正予算(第6号)について

議案第11号 平成29年度大鹿村立診療所特別会計補正予算(第4号)について

議案第12号 平成29年度大鹿村営水道特別会計補正予算(第4号)について

議案第13号 平成29年度大鹿村介護保険特別会計補正予算(第3号)について

▼実績による増減が主です。道の駅整備事業は繰越で29年

度に行われていましたが、事故繰越により本体工事が6月30日までとなりました。オーブンは夏頃となります。

議案第14号 平成30年度大鹿村一般会計予算について

▼平成30年度の一般会計当初予算は総額18億4000万円、前年比17%増。主な新規事業は次頁の表のとおりです。詳細は「広報おしか」4月号をご参照ください。文化交流事業、図書スペース増設については一般質問でも取り上げています。

議案第15号 平成30年度大鹿村国民健康保険特別会計予算について

議案第16号 平成30年度大鹿村立診療所特別会計予算について

議案第17号 平成30年度大鹿村営水道特別会計予算について

議案第18号 平成30年度大鹿村介護保険特別会計予算について

議案第19号 平成30年度大鹿村後期高齢者医療特別会計予算について

算について

議案第20号 財産取得について

▼ろくべん館前等の旧河川区域を村で取得し、文化交流施設等の用地とします。

議案第21号 固定資産評価審査委員の選任につき同意を求めるについて

▼間瀬公夫さん、岩本純一さんが選任されました。

請願

1 「緊急事態条項」を新たに憲法に設けないことを求める意見書提出に関する請願

▼継続審査

2 主要農作物種子法廃止に際し、公共財としての日本の種子を保全する新たな法整備と積極的な施策を求める意見書提出に関する請願

▼採択

議員発議

発議第1号 主要農作物種子法廃止に際し、公共財としての日本の種子を保全する新たな法整備と積極的な施策を求める意見書の提出について

発議第2号 核兵器禁止条約への署名と批准を求める意見書の提出について

平成30年度主要新規事業

村制130周年記念事業の検討
(平成31年度に記念事業を計画)

文化交流事業の検討

大鹿村応援サポーター活用事業

CATV設備更新事業
(飯田ケーブルテレビへの移行)

保育所建設(建て替え)の検討

そば栽培振興事業

夜泣き松周辺整備事業

交流センター図書スペース増設
など

一般質問



齋藤栄子議員

*若者をどう村づくりに参加させていくのか

【質問】 地域の多様な資源を生かしながら今後大鹿村の稼ぐ力を引き出していくために、村はどう取り組んでいくのか。

昨年行った議会報告会の中で、イターン、Uターンの若い力を借りて一緒にやっていかないと、大鹿の農業が衰退してしまう、何とか考えてもらいたいとのご意見をいただき、農林業に携わるイUターン者で作るグループの代表を中心とした6名の方のお話を議員全員で聞いた。

その中で一人のUターンの青年が、日本一標高の高い大鹿のお茶の木を使い、自分で作った炭で沸かした大鹿の軟水で煎れたお茶を私たちに持つ

てきてくれた。彼は林業で独立し、国の制度を使って何人かの雇用をする傍ら、大鹿の資源を最大限に生かしたいと、三年番茶作りに取り組んでいるとのことだった。今後は今静岡で行っているお茶の焙煎を大鹿のカラマツの廃材を使ってできたらと話す姿に頼もしさを感じた。

大鹿を支えていく人材育成に、村として何らかの支援をしていく施策はないものか。

また、移住者が増える中、仲良くしたいと思っているが、コミュニケーションがうまくとれていないとか、考え方の違いからトラブルも耳にする。時代遅れなやり方ではあるが、交流掲示板などが欲しいとの声も出ている。

【村長】 大鹿村にはいろいろな資源があり、その活用についてそれぞれ皆さん頑張っておられると思っている。資源等の使い方についても、個人の考えや思い入れによって利活用に大きな差がある。以前肉用牛の団地を作るときには本当に村を挙げて取り組んだが、

そんな画一的な取り組みは今の時代かなと思っている。

支援となると、どうしても資金面かと考えるわけだが、農業関係、林業関係、商工関係それぞれ幅広く支援するルールはあると考えているし、うまく活用できるような相談をいただければと思っている。ルールなので、その場で即という回答の有無はあろうかと思うが、まず相談をしてみようのが第一かと思う。

掲示板というお話はイメージとしてわきにくいですが、方法等もう少し具体的に提案いただければ、進められる可能性はないことはない。

消防団活動に積極的に出て情報交換してもらうことも大事だと思う。

【質問】 相談に行ったところ、あまり深く相談には乗ってくれず、他の市町村の方が親身になってくれたという悲しい話もあった。移住者の方々が何でも気兼ねなく相談できる窓口を検討していただきたい。早く大鹿の地になじんで、村づくりに参加しやすい態勢づ

くりも必要なのではないか。

村長 ルールの説明で本人の思いと合致しない場合は出てくると思うので、よくお話をしていたらと思うし、ご提案については私どもも振り返ってみたい。



東村邦子議員

*「ワイドFM放送」開局に際して

質問 AMラジオが聴き取りにくい難聴地域をカバーするワイドFM放送が長野ではSBC信越放送でこの3月から始まる。飯田局も今年6月に開局予定と聞く。問題は、このワイドFMは全県を80%カバー予定で、大鹿村にクリアな電波が届くか、一気に難聴地区が解消されるか、開局して電波を流してみないと分からないとのことだ。村として開局前に放送試験をしてもらい、それによって何らかのあ

らかじめの対処がしておけないものか伺いたい。

村長 ワイドFM放送ということでSBC放送がAMの補完的にFM電波で流すという計画のようだ。飯田局は94・2メガヘルツ、100ワットの出力で流すということだ。エリアの情報を見ると、大鹿村はクリアに聴ける範囲には入っていない。

今のNHK・FMが飯田の放送局で100ワットで電波を出している。現状の飯田のFM放送が聴けない限り、多分聴けないと思う。補完的にFM長野とNHK・FMは大鹿に局を作っている。それは出力1ワットの非常に小さなものだが、そういうものを作らない限り可能性は低いのではないかと思っている。

もう一つ、新たなラジオを買わないと聴けないという条件もある。

もう少し内容をSBCに聞いてみることは可能なので、やってみようとは思っている。

質問 試験放送の申請が難しいのであれば、実際に6月に

放送されて難聴地区が残った場合に、村として国に直接働きかけてもらうという方法がある。民放の担当者からはぜひ村で動いていただければという話を伺っている。村の環境整備にぜひ、そういう場合は早めの行動を起こしていただきたい。

村長 SBC放送のことをなぜ国に言うのか疑問だ。出力や電波の周波数はほとんど変わらないので、今聴こえないところは聴こえないと思うので、試験放送は無理だということでご理解を。

*文化交流事業検討費に関して

質問 平成30年度の大鹿村当初予算の中に文化交流事業検討経費が新たに計上されている。今定例会初日に可決された財産取得の中に、ろくべん

館と中央構造線博物館の道を挟んだ河川区域に文化交流センターとしての用地が予定されているとの説明があった。この文化交流事業は村長の公約の一つに掲げられていると聞

いている。村長の思い描いている内容、イメージをまずお聞きしたい。

村長 昭和60年代に大河原流路工の工事が決定され、大鹿小学校が移転する話があった。その移転先が当時大鹿村資料館となっていた旧大河原中学校、要するに今の小学校の場所に決められた。この一連の事業を進めるに当たり、まず考えなければいけないのが資料館をどうするかということだった。そこで流路工工事の計画図面を見ると、堂垣外地籍に一定の面的広さを持つ土地ができることになり、中央構造線博物館が堂垣外にでき、なおかつそころくべん館を持つというところで動

き出した。それぞれ平成5年、平成6年に建物が完成し、開館してきている。

村内の土地利用としての考え方の中で、堂垣外の地をそういうものを集めた文化ゾーンという形の中で計画を練った記憶がある。時代は30年たってしまったが、今ようやく用地の確保ができたと考えている。

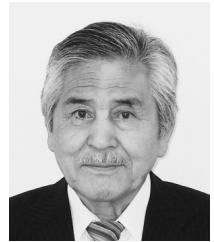
重文となった大鹿歌舞伎ほか、伝統芸能や新たに大鹿村をPRできる資源を活用して交流を行うことによって、流動人口増、また経済効果を求めていきたい、そういう思いで来たわけだ。30年たって、一歩先が見えたのかなということだ。

そこで文化交流事業の検討に入るわけで、ようやく具体的に検討に入れるということなので、検討チームを作り、研究を進めていきたい。

質問 村うちの交流事業は大河原に交流センターがあるわけで、今度の文化交流事業は外向きの顔だという概略を感じた。確かに人を呼べる施設、流動人口を確保する、外貨を落としてもらう交流の仕掛けもすごく大事だと思うが、総花的にあれもこれも詰め込んで実現させるには、人材が果たして村にどれだけいるのかという不安が出てくる。

齋藤議員も村の人材づくりという質問をされたが、私も今回特に要望したいのは、村の内なる声を反映していくた

にしていつていただきたい。



秋山光夫議員

***災害対策基本法は地域を熟知した地方自治体ごとの防災対策を求めている。村独自の対策は？**

質問 東海地震の対策として静岡、長野、愛知の地下に計器を設置し、前兆現象を観測して予知につなげようと、1976年、大規模地震対策特別法で非常に多額なお金が静岡県沿岸に注がれた。

村長 検討委員会の人材についてのお話ですが、ご意見としてしっかり承り、これから人選をするわけなので、参考とさせていただきます。

質問 この文化交流センターの予定地は小渋川の河原になる。そもそも歌舞伎の芝居小屋がかかったのは都の河原と聞く。そういう意味で、重要無形民俗文化財になった村歌舞伎、村芝居にふさわしいあり方の拠点、事業作りも、村芝居の原点を思い起こして形

高いとして南海トラフ特措法が制定され、さらなる対策が検討されている。

世界でも極めて優秀な日本の観測網でも1995年の阪神淡路大震災、2011年の東日本大震災の予知は全くできなかった。政府の中央防災会議で地震発生の複雑なメカニズムは未解明な部分が多く、予知予測は限界があると認めるに至った。

災害対策基本法ではその地域を熟知した地方自治体ごとの独自災害対策を行うように求めている。また、地震だけでなく、地球温暖化の進行による台風、豪雨、豪雪、そのために土砂災害、電気・ガス・水道・通信・放送等の機能停止が予測される。災害関連死者数が直接死者数の3倍になると想定されている。簡単に地震なんかこないよという樂觀的な風潮があるが、東日本大震災、阪神淡路大震災、熊本地震も想定外の連続だった。

後追い対策や法律、予知予想も期待が持てない今、災害対策基本法が求めている地方

自治体ごとの独自の災害対策として、村長は今どう考えておられるか。

村長 村の防災対策の基本である大鹿村の地域防災計画を改定するというところで、予算計上させていただいている。今年度、独自のものを作っていく。より現状に合わせたものになるよう取り組んでいくつもりです。

昨年より防災担当の方で地域防災マップを活用してもらうお話をし、マップによって避難等の研究をした自治会が具体的にある。そんな経験もできたので、今後この取り組みが一自治会でも多くできるよう、本当に地域に即したものができるよう努めていきたい。それぞれの自治会の中で住民の方自身が積極的にかかわっていただくことが一番大事かと思うので、そういうことを進める努力もしていく。

***15か所の防災倉庫について**

質問 大河原、鹿塩、桶谷の各水防倉庫には道具類が収納

され、デイスサービスセンター、交流センター、鹿塩地区館、中学校の4か所には飲料水、非常食、各種の災害対策品が十分に備蓄され、管理もきちんと行われている。上蔵、沢井にも防災倉庫が増設され、合計15か所と災害対策を推し進められ、一村民として大変感謝している。しかし、各自治会防災倉庫内の数量と種類が人口と整合せず、画一的に収められた感がある。

以前、一般質問で村長のお答えを求めたが、「調査して調整する」とのことだった。

また飲料水、非常食、救急医療品については「自助、互助で対処してほしい」とおっしゃったが、大鹿では災害のとき孤立集落が発生する確率が高いと想定されている。夏場に震災が起きた場合、飲料水、食料、また家屋崩壊等では人が出た場合の救急措置等はどうか。飲料水と救急医療品だけではどうしても倉庫に入っていたきたい。**村長** 備蓄品については基本的には変わっていない。防災

班長会において必要な物、必要な物があれば申し出をいただきたいという話もさせていただいたが、今のところ具体的な話は聞いていない。

確かに夏場に地震が起きたり、集中豪雨等起きる可能性はないとは言えないが、国においては各家庭で水や食料等3日分くらいは個々に確保されたいと繰り返しアナウンスされている。

けがの話があった。確かにこれは必要だ。包帯やガーゼなど再度調べて、ないところについては配置に努めていきたい。しかし、薬品類については温度変化が大きいので変質等一抹の不安があるので控えさせていたきたい。

質問 医薬品でも長期保存できるとは性質の物であれば、いけるのではないか。それも調査していただきたい。

食料は3日食べなくても死なない。ただし、夏場の3日間の水は、関連死の方が30倍も多いという事例も出ているので、その辺のところは考えを変えていただきたい。

村長 調査して数量配分は考えなければいけないと思うが、人口が少なくても距離が遠いところにはそれなりの量を置かなければいけない。そんなことも考えながら対応させていただく。

水についても、本当に非常時になれば、しっかり対応も組まなければならぬとも考える。しかし、それぞれの人が対応を考えてもらうのが一番ではないかと思う。



河本明代議員

*小洪線崩落事故のその後と確認書の見直しについて

質問 昨年12月15日に発生した小洪線の崩落について、3月14日付の信濃毎日新聞にJR東海が「今月下旬にも同社側の責任を認めるとともに、詳細な事故原因などをまとめた報告書案を県に提出する見

通しであることが13日、分かった。県は土木の専門家を交えて安全対策を検証し、住民に示す方針。報告書案には復旧に向けた工法や、今後の安全対策なども盛りられる見通しだ」という記事が掲載されていた。

今回のリニア連絡協議会ではその内容の一端でも示していただけるのか。

観光関係などで補償の話も出ていたかと思うが、その後どうなっているのか。

一昨年の着工前に交わされた確認書では、補償について記述が不足していた。独立した項目を立て、実害に応じてきちんと補償を求める内容に見直すべきではないか。

村外の残土置き場も依然決まっておらず、152号線迂回路の件も依然解決していない。青木工区が始まる前には確認書の見直しが行われると思うが、その際にはこの間の住民の苦情なども勘案しながら内容全体についての見直しが必要と思うが、いかがか。

村長 冒頭のことは新聞記事のとおりだ。県の方へいつ報

告してどうなるかがまだ分かっていないが、間に合えば、連絡協で話してもらわないと思味がないと思っている。

小洪線の事故に関する補償については、原因等の調査結果がはっきりした段階で何らかの方向が示されると思うし、村としても根拠等しっかりしてほしいということで県の方に申し込んでいる。

当初締結した確認書において、見直しをするという条項があるので、当然のことながら青木の件については入っていないし、追加して見直すことは必ずやる。

*大鹿村内のリニア残土置き場について

質問 2月21日に、旧荒川荘発生土置き場の環境影響検討結果と保全計画がJR東海より公表された。当初の説明では県道の高さまで積むという話だったが、荒川荘の場所においては道路より7mくらい高く、最大15mもの高さ、壁面の角度が73度という急勾配で盛土する計画に驚いた。ま

た地すべりに対しては抑制的に働くと思われていたことにも疑問を感じた。県の環境影響評価技術委員会においても、工事完了後の管理も含めて安全面を危惧するいろいろな意見が出され、追加資料の提出なども求められていた。

また、蔦ヶ巣の下部に盛土をする計画についても、下流の下市場などに土砂災害の被害が及ぶ懸念を払拭できず、下流地域への説明も求められると申し上げたが、その後どうなっているのか。

小洪線の影響低減のために村外へ行くダンプの台数を少しでも減らしたいのは分かるが、将来に渡って土砂災害の危険があり、安全が脅かされる可能性のある場所での盛土計画はいかがなものか。

村長 旧荒川荘、蔦ヶ巣等については、ちょうど例年の懇談会を開いていく時期となるので、説明、懇談をしていくつもりだ。

今回のリニア工事については各地でその安全性について課題が出され、いろいろな検

討が重ねられていると思うている。旧荒川荘の件については県の環境影響評価技術委員会で審議されている。その内容について質疑、助言等され、さらにJRに対して説明が求められていると聞いているので、そちらの意見も今後しっかり参考にしていかなければいけないと思っている。

質問 将来、地権者に返された場合に管理のこともかわってくる。地すべり地帯なので安全性だけは本当に慎重に考えていただきたい。

村長 技術委員会の皆様のご意見も、私もJRに問い合わせてきちんと対応を求めていると思っています。管理についても将来的にどうなるかも詰めていかなければいけないと考えている。

リニア関係のお話をさせていただいた時に必ず出てくるのが、松川インター大鹿線の通行に関するところなので、可能性があるところがあれば、やはり対応していかなければいけないと考えている。

*交流センター 図書スペースについて

質問 30年度の新規事業として交流センター内に図書スペースを確保する事業が盛り込まれているが、どこにどのように確保する計画か。予算特別委員会における説明では、現在の倉庫の壁面を撤去して、図書スペースを確保し、倉庫はトイレの横に移動する計画とのことだが、それでは図書室として最低限のスペースも確保できるとは思えず、過去の図書室検討委員会において却下された案よりもさらに後退していると感じた。これでは単なる書庫になってしまうのではないかと危惧する。また検討委員会で指摘されていた、

交流センターではお葬式の際に利用しづらい点や、土日祝日の対応ができるのかといった点なども変わらず、多々疑問が残る。昨年9月の一般質問で図書室の充実について伺い、道の駅を村民の日常生活に必要な機能を集約・連携した小さな

拠点のようにしていくのであれば、図書室も道の駅付近が望ましいと思うとは申し上げたが、今回の事業内容は図書スペースとあえて言われているように図書室の充実ではないと思う。これは暫定的な形として考えているものか。

村長 暫定的かどうかという話をご質問の趣旨かと思うが、人口規模、管理上の問題、運営をどうしていくか、それから道の駅への公共交通を配慮するという考えも徐々に固まってきたので、あそこ人が寄り集まってくるということを総合的に考えた上で、この方法をとった。あの場所が便益的にも管理にもいいという判断です。

質問 暫定的ではなく、今回の図書スペースの改修が、将来的にもその姿を考えているということか。

長野県内77市町村のうち公立図書館がない市町村は22町村ほどあるが、そのうちの多くの町村には公民館図書室がある。言うまでもなく図書館は生涯学習の拠点となる施設

だ。人材育成の点から考えても必要な施設と考える。

道の駅や交流センター付近ではなく、文化交流施設に併設することも検討されてはいかがか。そうすれば土日祝日の利用も可能だ。

利用する人が少ないからといって図書スペースでとどめるのでなく、逆に村民が積極的に利用したくなるような図書室をご検討いただきたい。



伊東康明議員

*山林の日陰による凍結 道路対策について

質問 今年の冬は降雪後、水点下の日が長く続き、村内の多くの道路で凍結し、解けない状態の場所が数多くあった。特に道路沿いに植林された木が伸びて日陰になった場所が多く見られた。地主の方が村外で手入れがなされていない。また、道路上に張り出した枝

も切らしてもらいたいが、地主と連絡が取れないという声も聞いている。地主の世代が代わって、自分の山の場所もよく理解していない方もおられるとの声も聞いている。今後木は生え、このよう場所が多くなると思う。村内道路の安全確保のためにも対策が必要と思うが、村長はどのようにお考えか。

村長 非常に頭の痛い問題だと思っている。路面凍結の方が怖いのかなという感じはしている。対策についてだが、特効薬はなかなか見つからず、地権者に了解を得る中で、日陰になる木を伐採また間伐等させてもらうということまで対応してきている。

そのためには具体的な情報を寄せていただく、所有者の了解などをお願いしたい。例年これらの費用については9月の補正対応でやっているの、該当がある場合にはお伝えいただければ対応していけると思っている。

砂や融雪剤をまくことについても努力はしていくが、も

とから変えるのは、やはり日陰になる木を片付けるしかないと思うので、ぜひこういう場所があるというお知らせをいただければと思う。

質問 地権者も世代が代わってしまつて、前は持ち主の顔も知っていたので大鹿に来たときに話ができたが、息子の代、孫の代になつて、誰と話をしたいか分からないというような方もおられる。ぜひ村の対応として、場所が確認できたところについては地権者の皆さんに何らかの方法でお知らせして、そういう働きかけをしていただきたい。

村長 具体的にこの場所がということを実地の方でお知らせいただき、実際にそこがどうなっているかということをお話しただければ、具体的な方向へ動き出すことができる。地元の方が話ができる場合もあるので、お互いということでご理解いただければと思う。

*婚活支援について

質問 未婚の男女の婚活活

動、いわゆる婚活について、少子化対策の観点からも、自治体としても支援が必要ではないかと思う。

現在、下伊那北部事務組合で北部地区結婚相談所愛ねつと北部を運営しているが、大鹿村での登録者はここ数年ゼロだ。また、当地区でも結婚相談員の方もおられるわけだが、以前であればお見合いを勧めるのが好きな方がいて、見合いの席をセツトするようなこともあったが、現在はお見合いは好まないし、そのような世話好きな方もいない。結婚を考えながらも出会いの機会が減少している独身男女の交流を促進することが、行政として必要ではないか。村の活性化として一番大事なことでないかと思っている。

時代の変化や、家庭内のデリケートな問題なので、なかなか難しい面もあると思うが、村として今までどのような取り組みを行ってきたのか、今後どのように取り組んでいくのか、村長のお考えをお伺いしたい。

村長 頭の痛い問題と同時に、回答にも窮しているというのが実際のところだ。愛ねつと北部ができて以来、大鹿の登録者はずっとゼロのままで来ている。昨年からは所長さんが代わった。今度の所長さんは先日村に直接見えられ、何人かの方と面接をされるなど積極的に動いてくれているので、何とかならないかなと思っているのが実情です。

村の相談員さんにも改めて私の方からぜひ活動をお願いしたいと伝えたい。

保健福祉課長 愛ねつと北部の登録者数だが、現在3名ほど登録された。これは所長さんが代わり、積極的な対応をしていたいてる成果だと思ふ。今後については、村の相談員の方と北部の所長さんと一緒に活動していただき、登録者数を増やしていきたい。また、登録していただいた後に出会いの場を提供して、いい成果が上げられるように村としても努力していきたい。

質問 村内の結婚相談員は何名いるのか。今までどのような活動をしていたか。

な活動をしていたか。

保健福祉課長 現在2名が活動している。毎年何回か北部の結婚相談所と連絡会議があり、どういう活動しようかという相談をする。そして大鹿に帰ってきて該当すると思われる方に面会には行くわけだが、なかなか登録にはいかないというのが今までの状況だった。



北島千良穂議員

*リニア青木谷エリアと送電線について

質問 国道152号線改良はどの程度行うのか。堂垣外、上古川、唐沢前を詳しく知りたい。村も地元も強い要求の下樽渡橋の架け替えはどうなっているのか。また、中電の送電線はどうなったのか。その後どう進んでいるのか。青木谷エリアの一般村民への説明会はいつするのか。

村長 青木エリアについて業者は決まっているが、施工計画等の策定中と思われ、具体的な相談等は今のところない。国道改良についても今後の取り組みになってくる。

下樽渡橋についてはJR東海と県で協議を行っていると聞いている。県として30年度に調査測量の予算が要望されているので、架け替えの方向で対策が取られるのではないかと考えている。

中電の送電線については12月の連絡協で報告があり、環境調査と境界立ち会いが30年度、31年度前半に補償調査、31年度後半から工事着手できればという説明があった。これは1月15日発行のリニア情報に掲載している。

説明会については、まだ工事の計画等が決まっていないうし、国道の改良についても村に何の情報もないので、まだいつになるか決まっていないうし、私どもも想像できない。

質問 堂垣外地区は冬は凍結がひどく大型車のすれ違いが心配なので、安全対策をしつ

かりやっていたきたい。

上古川は全線対面通行できるようにお願いしたい。

唐沢前は道路幅が狭く怖い場所なので、拡幅ができないのであれば、安全対策をしつかりやっていたきたい。

国はリニアの変電所と鉄塔建設をやってもいいと許可したので、これからJRも中電も強気に出てくると思うが、村民の立場に立つて事を進めてほしい。

村長 要望ということでお話を伺ったので、きちんと伝えていきたい。変電施設についても、村民の立場に立つて意見を言っていきたい。

質問 青木谷については確認書の見直しになるのか、また新たな確認書を作るのか。中電とも文書を取り交わしておくべきだと思う。

唐沢地区の近所を鉄塔が通ると伺っているが、唐沢地区では繁殖牛が飼育されている。鉄塔工事の折にヘリコプターで資材を運搬するかもしれないので騒音が心配される。騒音が出ない方法で工事を進め

てほしい。

村長 確認書については青木独自にするのか、小渋と合わせてやるのか、いずれにしても変わったものについては取り交わしていかなければいけないと思っている。

中部電力についても、何らかの方法で、必要とあれば文書の交換はしなければいけないのかなと思っている。

工法については具体的な話はまだ聞いていないので、ヘリコプターがどうなるかというのは今後の課題かと思う。

*リニア迂回路と赤石岳公園線利用について

質問 小渋川左岸の迂回路は、最下流に架ける仮橋橋は100m以上離れた上流で工事が始まっている。橋の位置付け替えについて、JRとの協議はあったのか、どうして前の位置を変えたのか。

沢渡前の仮橋はどのような話が進められているのか。話し合いが難航しているのか。沢戸から赤石岳公園線と新小渋橋を使って残土運搬をする

いうことなのか。

JRと確認書を交わしているが、ルール違反となる。その扱いはどうするのか。

暫定的に運用するとしているが、最低でも1年近くは暫定となるということか。

村長 この橋を架けることは民有地を通行することとなるので、民有地の通行について村が了承を得ることとなっているが、得られていないので、橋を架ける工事はしていない。

ご質問のとおり難航しているということ、あくまで暫定的なこととして、県道、新小渋橋を使用する。民有地の通行の了承を得られなかったことについては、誠に申し訳なく思っている。なお今後もし承を得るための折衝は続けていく。

今後折衝は続けていくので、このことについてルール違反という話はまだ起きていないと理解している。

最低1年かという話があった。橋を架ける期間等を考えると、そのくらいは必要になるのかなと思っている。

最下流の橋は当初もつと下流ということだったが、あそこは国調が済んでいない場所

で、地権、制限地等のことがあり、その部分について通行することに問題があるということ上で上流に移した。当然、JRと相談しながら移した。

質問 暫定的に残土を運ぶという中でいいのか。地権者との話し合いの中で見通しはあるのか。新小渋橋を利用して暫定として運用したいとJRから申し出があったと思うが、それはいつ頃あったのか。

当然JRが村民に対して説明会を開き、村民が納得いくような説明をするべきだと思うが、いかがか。

村長 当初運ぶのは、ろくべん館前やグラウンドになる。残土も運ぶし、必要な資材も運ぶ。

見通しはあるかということだが、交渉なので今ここで言える話ではない。今後も誠意を持って折衝は続けていきたい。迂回路については村と地元住民の皆様からの要望であった。あくまでこれは、村と地権者の方との話かと思っている。

第1回臨時議会

平成30年大鹿村議会第1回臨時議会が3月22日に1日間の会期で開催されました。付議事件1件が上程され、原案どおり可決されました。

議案第1号 建設工事変更請負契約の締結について
▼道の駅建設事業の増額に伴うものです。

若者グループ

との懇談会

3月7日にイターン、Uターンの若者グループとの懇談会を行いました。これは議会報告会の中でイターン人材の活用についてご意見をいただき、まずは議会全員で話を聞こうということで始めたものです。その内容は早速、一般質問や予算審議等にも生かされています。今後もいろいろなテーマで懇談を重ねていく予定です。ぜひ多くの皆様のご参加、ご意見よろしくお願ひいたします。